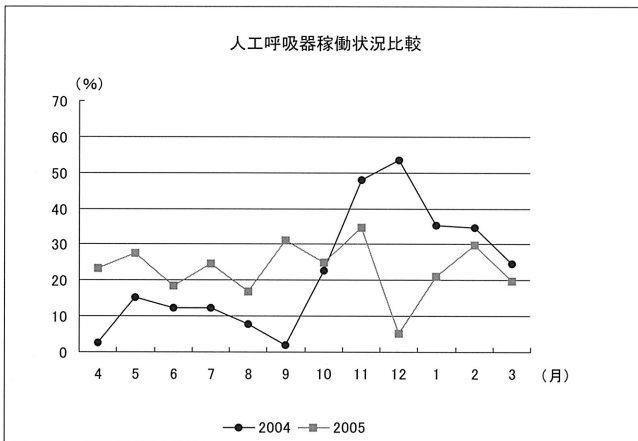


病院開設時から臨床工学技士1名の常勤であったが、2005年9月より済生会熊本病院臨床工学部より1週間のうち2日の派遣にて業務を行っている。

1. ME 機器中央管理業務

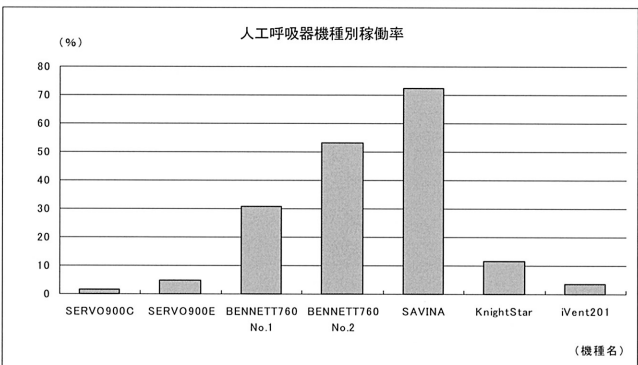
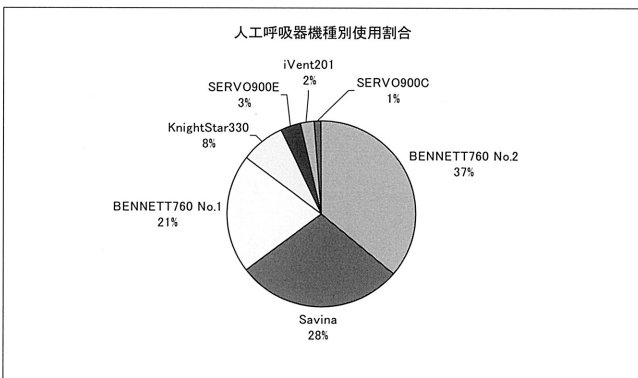
週2日の派遣で、ME中央管理室の業務である、機器の貸し出し、保守点検整備及び修理を行っている。

中央管理しているME機器は、人工呼吸器7台（マスクベンチレーションの機器1台含及びレンタル器1台含む）、輸液ポンプ30台（廃棄7台含）、シリンジポンプ9台、経管栄養ポンプ4台、小型シリンジポンプ6台、低圧持続吸引機11台、超音波ネブライザー4台、除細動器4台、対外式ペースメーカー2台、その他ジェットネブライザー、セントラルモニター、移動用モニター、自動血圧計、パルスオキシメーター等である。



平均稼働率23.2%（前年度22.6%）

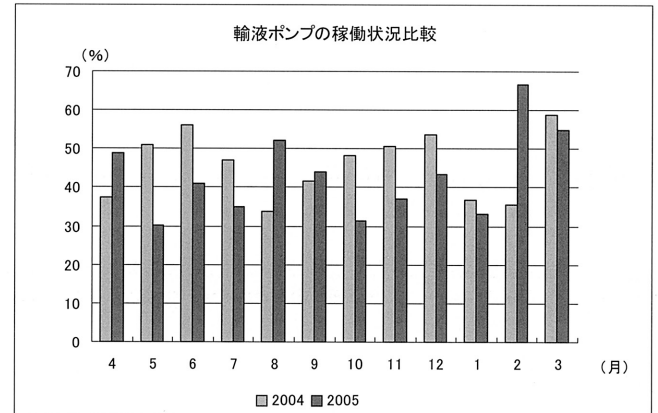
（注：人工呼吸器の台数は2004年度6台、2005年度7台で算出）



「Savina」は2005年9月から使用開始したが、稼働率が示すように常に使用中である。

人工呼吸器機種別使用割合と稼働率のグラフより「BENNETT760」2台と「Svina」の3台が本院の主力機種といえる。

レンタル器である「iVent201」はマスクベンチレーションとしての利用がほとんどであった。



輸液ポンプは、各月で使用頻度に傾向見られなかった。

人工呼吸器は季節により格差があるのが通例であるが、2005年度は年間を通して20～30%の稼働率であった。

輸液ポンプ30台のうち7台が故障しており、パーツ供給も終了した為、今後の使用頻度を見ながら機器の更新を検討する。

2. 病棟機器の修理整備業務

機器の修理調整においては、中央管理機器によらず病棟管理の物品も行っている。

2005年度の依頼状況は酸素流量計が最も多く、次いで自動血圧計であった。パルスオキシメータの故障も目立ち大半を買替えることとなった。

除細動器の定期的な点検を開始した。

3. 人工呼吸器業務

人工呼吸器が必要な緊急時は、機器を選定しベッドサイド配置及び呼吸器設定の補助を行っている。

定期的な回路・フィルタ交換は当然であるが、不穏などがある場合は回路の構成の変更も行っている。

4. ペースメーカー業務

体外式ペースメーカーの電極挿入時にジェネレーター操作及びサポートを行っている。

5. 手術室業務

麻酔器も定期的なメンテナンスの必要性があり、定期点検を行っている。

要望があれば手術の補助も行っている。

6. ME 教育・指導

システム及び関連設備の原理、構造、適切な使用法、起こりうるトラブルとその処理、安全対策等に関して、随時情報提供を行っている。

トラブルの報告があった際は、迅速に対応・原因追求して回答してきた。また、その情報をME中央管理室に蓄積して、メーカーと協議している。